

《単位互換提供科目詳細》

* 科目 No. 1119

科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島経済大学		科目開講 キャンパス	本学		
2. 科目名	正式科目名	国際企業論Ⅱ			クラス名	
	副題	国際的に活躍する企業のトピックス や新しい課題について学ぶ			配当年次	3
					受入学年	3年以上
	旧科目名					
	学問分野	番号	42	名称	国際関係	
	サテライトで開講される科目の科目群		A群	B群		
3. 担当教員名	川村 健一・ビジネス・教授					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	後期		
6. 開講期間 曜日・時間	2018年 9月 25日(火) ~ 2019年 1月 15日(火) 火曜日 10:45 ~ 12:15					
個別開講日	1回目 9/25	2回目 10/2	3回目 10/9	4回目 10/16	5回目 10/23	6回目 10/30
	7回目 11/6	8回目 11/13	9回目 11/27	10回目 12/4	11回目 12/11	12回目 12/18
	13回目 12/25	14回目 1/8	15回目 1/15	16回目	試験日	/
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	制限なし (人)		9. 定員超過時の 選考方法	なし		

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p>1. 科目内容 本講義では、前期の国際企業論Ⅰで学んだ6つの企業（NGOを含む）と個人の間を、発展させて、企業と社会の関係を学ぶために、新たな世相を代表する衣・食・住・エネルギー・情報分野の企業から第1回目のガイダンスの講義において学生と討議して新たなケーススタディを行う企業等を決める。各社の経営のポイントを深耕し、国際企業としての経営の課題、グローバルな戦略構想、即ち企業の目指すグローバルシステムの中で組織のデザイン、経営とリスク管理、社会貢献等の行動基準等を学ぶ。また、近年注目されている次世代マーケットとしてのBOP(Bottom of the Pyramid)、企業の社会貢献としてのCSR(Corporate Social Responsibility)に関しても言及する。講義の進行は、6回程度の企業経営者レベルからの実際の企業経営情報提供と当方の解説、そして企業と社会の関係を考える上で各社のケーススタディの討議を学生と行うフィードバックを組み合わせた双方向型の講義形式を進める。書籍や第三者の情報からでなく実際の責任者からの生で、事実に基づくケースに接し、討議することにより、刻々変化する国際企業の現状や経営者の判断根拠を、臨場感を持って学ぶものである。</p> <p>2. 授業計画 第1回 前期学んだ国際企業論Ⅰのまとめと国際企業論Ⅱの講義全般の内容ガイダンス 第2回 これからの世界・日本・広島を考える。 広島企業の世界進出の状況を確認しながら、後期の講義の方向性を探る。 田村国昭／元 博報堂 執行役員 第3回 グローバルな経済活動を進める社会的責任とは、何か。 企業の倫の確立(グローバル コンパクト)と具体的な活動、企業と社会の関係を考える。 第4回 地域と金融の関係を学ぶ： マイクロクレジット、マイクロファイナンス。地域連携等 西京銀行 執行役員地域連携部長 末田 義明 第5回 持続可能な社会を目指して：スーパーの環境社会貢献活動 ユニグループ・ホールディングス(株) 執行役員 百瀬則子 第6回 “新しいマーケットとしての40-50億人にも及ぶ世界的な経済ピラミッドの底辺(BOP)” をいかにして経済活動のマーケットとして考えるか、 経済復興、震災復興をサポートするビジネスを考える。LOHASビジネスと社会の関係 第7回 新たなライフスタイルを創る——>ファッション創造ビジネスと経済の動きを考える。 ファッション界の新しい流れを起こす旗頭の経営感に迫る ビームス総研 取締役 南馬越 一義 婦人服トップバイヤー 第8回 広島で成功した世界に成長するベンチャー企業の社長に聞く： 新しい事業の立ち上げとは、経営者としての視点を学ぶ (株)アスカネット CEO 福田 幸雄 第9回 アジアへの進出企業の現状を学ぶ。特に、カンボジアに焦点を当てて今後を考えてみる。 フォーバル・カンボジア 会長 水越 健晴 第10回 世界の自動車市場と電気自動車将来展望・戦略を聞く フィリピン・マニラ市の環境を良くするEV(電気自動車)導入戦略を聞く。 (株)GMS 代表取締役社長 中島 徳至 第11回 生活用品を扱うビジネスの世界への進出と経営理念 ライオン(株) 国際企画部 CSR担当部長 小竹 由紀 第12回 住宅産業における国際的な研究分野の構築と社会との協働(CSR) 積水ハウス(株) 広報部長 楠 正吉 第13回 世界最大IT企業 IBMのCSR戦略 日本IBM株式会社 常務執行役員 戦略事業担当 小出 達也 第14回 まとめ グローバルに活動する企業のトップといわれるジェームス コリンズ等の著した“ビジョナリ カンパニー”みる卓越した企業、これから国際企業を目指す企これらの規範となるべき経営理念、戦略、行動について討議を行い、国際企業としての経営の根幹をまとめる。“社会と企業と人” 第15回 博報堂の進めるイベント戦略 博報堂のプロジェクトを企画し運営する精神を覗く。ヴィジュアル マーケティングとブランディング 慧エンジニアリング 取締役 井上英之 (元 博報堂)</p>						
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>定期試験を実施します。 後期試験 60%、ケーススタディーレポート30%、受講態度10%の総合評価で判断する。遅刻者や受講態度の芳しくない者については、最大20%の減点がある。</p>						
<p>12. 別途負担費用</p>	<p>特にありません</p>						
<p>13. その他特記事項</p>	<p>特にありません</p>						
<p>14. サテライト科目の社会人受講について</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="451 1888 1145 1933">科目等履修生(単位付与)として受け入れ</td> <td data-bbox="1145 1888 1297 1933">可</td> <td data-bbox="1297 1888 1444 1933">否</td> </tr> <tr> <td data-bbox="451 1933 1145 1975">聴講生(単位認定不要)として受け入れ</td> <td data-bbox="1145 1933 1297 1975">可</td> <td data-bbox="1297 1933 1444 1975">否</td> </tr> </table>	科目等履修生(単位付与)として受け入れ	可	否	聴講生(単位認定不要)として受け入れ	可	否
科目等履修生(単位付与)として受け入れ	可	否					
聴講生(単位認定不要)として受け入れ	可	否					